

# 平成28年度岡山県図書館協会第1回理事会議事録

日時：平成28年5月18日（水）13:30～15:00  
場所：岡山県立図書館 2階サークル活動室2  
欠席3名

## 1 開 会

## 2 あいさつ

村木 生久 県立図書館館長あいさつ

- ・定数確認 平成28年度の役員数10名を定数とし出席7名、欠席は3名。うち2名は委任状があり、過半数の出席で会は成立する。

## 3 議長選出 村木 生久 県立図書館館長が選出

## 4 協 議〔P. 1～〕

### (1) 平成28年度役員の変動について

- ・資料①に従って事務局より説明。任期が2年間なため今年度役員の変更はないが、人事異動・輪番校等によって変更あったことを説明。 → 資料①案どおり承認

### (2) 図書館功労者表彰候補者について → 資料②の案を提示 → 資料②案どおり承認

### ■ (3) ①平成27年度事業報告・収支決算報告・監査報告〔資料③④⑤〕

- ・資料に従って事務局より説明。
- ・監事谷口様より監査報告。

意 見：繰越金が一昨年よりも昨年の方が増えている。70周年記念事業の時のためのものかとは思いますが、毎年繰越金が減らないのに違和感を覚える。

意 見：70周年記念事業で使うのであれば、繰越金とせず、積立金とした方がよいのではないかと。

意 見：70周年記念事業の時には、岡山県図書館協会だけでなく、図書館界がみんなの問題になるような会合と印刷物があるとよい。単年度ではなく、何年か先を見越して計画していきたい。

事務局：70周年記念事業についてはする方向で考えている。詳しくは協議（5）のところでご協議いただきたい。

質 問：個人会員が減った原因は何か。単純に職員数が減ったのか。

事務局：例年学校協議会と共催でセミナーをしており、その時に学校関係の司書の方が何人か入会してくださっていた。しかし、昨年度は違った形のセミナーだったため、その分の入会数が少なくなってしまった。それから、県全体の図書館職員数を見れば増えているが、臨時職員や嘱託職員が増加していて、正規職員数は減少している。そのため、図書館の仕事から離れるのと同時に退会した人が27年度は多かった。また、昨年度会則にある通り9月末以降の督促をしていないことも原因だと考えられる。

意 見：正規職員で入会したいという人が少なくなっている。時間外に研修に参加してまでとか、施設会員になっているから個人会員として入会する必要はないと考えている人が増えてきている。横のつながりを大切して、図書館界をよくしようとする気持ちが少なくなっていると感じている。施設会員になっているから入会しない人にも会員になろうと誘う働きをしたいと思っている。

→ 資料③④⑤どおり承認

②平成28年度事業計画案、収支予算案〔資料⑥⑦〕

- ・資料に従って事務局より説明。収入の日本図書館協会からの助成金という名目が、受取活動費という名目に変更。 → 資料⑥⑦どおり承認

■ (4) 研究奨励金の交付について

- ・資料⑧に従って事務局より説明。 → 資料⑧案どおり承認

(5) 岡山県図書館協会創立70周年記念事業について

- ・資料⑨に従って事務局より説明。

意見：50周年の時は竹内先生の講演内容も、読書大会と共催したのもよかった。図書館以外の人にも開かれた会になった。60周年の時は外部に委託したため、畑さんの講演もよかったが、もっと図書館に関わるものであれば更によかったと感じている。県立美術館やシティミュージアムなどに各図書館がもっている価値あるものを展示したり、レファレンスのことが分かるようなものを取り入れるなど、図書館から飛び出して、他の施設にも図書館を使ってもらったりコラボしたりできるようなものがよいのではないかと。また、図書館を知らない人にも知って使ってもらえるような内容のものにしたい。

意見：市の図書館には、昔のビデオテープやテープレコードなどが盛んな頃に集めた貴重な郷土の視聴覚資料に対応する機械が無く、どのように保存するべきか気になっている。そういうことについて単独ではどうしていきべきか対応が難しい。

意見：デジタル・アナログの問題を含め、郷土資料保存については、日図協の資料保存委員会など様々なグループが研究している。郷土資料について何をどのように保存していくかは、連携しながら考えていかなければならないが、記念講演の中にどのように組み込むかが難しいのではないかと。

意見：郷土資料も各図書館の価値ある資料として展示してはどうか。

意見：目が見えない、耳が聞こえない、体が自由に動けないなど障害をもたれている人にも来ていただいて、楽しんでもらえるようなものにしたい。

・70周年記念事業を行うための組織について

意見：まずは企画委員会ですればよい。

意見：残り5年だが、70周年に何を目標にするのか、1年ごとに企画を積み重ねて総合的な成果と発表として位置づけられるとよいのではないかと。

意見：各図書館でも個人でも温度差があると思う。よい記念事業にしようと思えば、人が関わっていく必要がある。一部の人がだけで参加してもらえない。70周年事業についてどんな人たちがどの部分で協力ができるのか、協力してもらえそうな人たちに早めに呼びかけて協力を得ていく必要がある。そのためには、早めに具体的な計画を立てなければならない。

意見：どの図書館も目の前のことで精一杯。

議長：金額面・内容面・スケジュール面も含めて、まずは企画委員会で進めていくということによいか。  
→ 承認

■ (6) その他

質問：熊本で起こった地震に関しての支援をどのようにしているか。

→ 各図書館・学校・大学などでの支援を説明。

意見：日本図書館協会なら日本図書館協会として、そういう場合にするかというのがあればよいとも思う。

- ・事務局から東日本大震災の時には総会で募金箱を設置してあったことを説明。  
今年度の総会にも設置するかどうかを協議。 → 承認

## 5 その他

- ・企画委員の改選について事務局から報告。

## 6 閉会